

平成23 (2011) 年度

沖縄県ホストファミリーバンク推進事業

海外県人会ホームステイ派遣事業
海外県系子弟ホームステイ受入事業

報 告 書



沖縄県文化観光スポーツ部交流推進課

(受託) NPO法人沖縄NGOセンター

ウチナンチュは、20世紀初頭、南北アメリカ大陸を中心に世界各地へ雄飛し、移住者とその子弟は各界各層で活躍しております。沖縄県では、この世界に広がるウチナーネットワークを有効に活用し、ホームステイを通して、海外と県内のウチナンチュの若い世代の双方向の交流を推進する「ホストファミリーバンク推進事業」を実施しております。

この事業は、平成18年10月に開催された「第4回世界のウチナンチュ大会」の際、海外県人会・民間大使会議において、「ホストファミリーバンク事業」の推進が決議されたことを受けて行われているもので、今年で5回目になります。

現在、海外の沖縄県系人社会では、時代の変遷と世代を重ねるにつれ母県沖縄に対する認識と関心が薄れる中、ウチナンチュのアイデンティティを継承し、県人会の次世代を担う人材の育成が課題となっており、他方県内の若い世代には、沖縄の近現代史の重要な要素を成す先人達の海外移民の歴史を学びこれを受け継いでいくことが求められていることが背景にあります。

今年度は、平成23年8月にアメリカ合衆国のワシントンD.C. とジャクソンビルに沖縄の若者12名を派遣しました。

派遣された12名の皆さんには、アメリカへ渡ったウチナンチュの移民学習や現地での学習等を通じて、沖縄の歴史を再認識するとともに、現地で出会った県人会の方々とのつながりを今後とも大切にしていきたいと思っております。

平成23年10月には「第5回世界のウチナンチュ大会」の開催に合わせて海外からの受入事業を実施しました。

大会のイベントの一つとして位置付けた今回の受入事業には、アメリカから1名、ブラジルから1名、ペルーから2名、ボリビアから1名の若者が参加し、南は糸満市から北は宜野湾市までの合計7世帯のホストファミリーに参加者を受け入れていただきました。

参加者には、ウチナンチュ大会の一環で行われた、各市町村主催の歓迎レセプションに参加していただくことで自分のルーツを知っていただくとともに、開閉会式をはじめ、フットサル大会や次世代ウチナーネットワーク会議等を通して、ウチナンチュ大会への参加をしていただきました。

参加した5名の皆さんには、交流を通して得た県民との関係を一過性のものにするのではなく、相互のコミュニケーションを保ちつつ友好の絆を深め、今後の国際交流、協力の担い手として活躍していくことを期待しています。

沖縄県としてもこの事業の成果を検証し、更なる内容の充実を期して参りたいと考えております。本県の国際交流・協力事業の推進に尚一層のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます、ごあいさつと致します。

平成24（2012）年2月

沖縄県文化観光スポーツ部交流推進課
課長 照喜名 一

はじめに

沖縄県ホストファミリーバンク推進事業

- 1. 事業概要 1
- 2. 事業経過 2

海外県人会ホームステイ派遣事業 報告

- 1. 派遣日程・活動日誌 3
- 2. 参加者 8
- 3. 事前事後研修 9
- 4. 参加者感想 10
- 5. 派遣者事前アンケート 18
- 6. 派遣者事後アンケート 19
- 7. ホストファミリーアンケート 21
- 8. 思い出のアルバム 26

海外県系子弟ホームステイ受入事業 報告

- 1. 全日程プログラム 31
- 2. 参加者プロフィール 32
- 3. 参加者感想 34
- 4. 参加者アンケート 37
- 5. ホストファミリーアンケート 41
- 6. 思い出のアルバム 44

- 編集後記 48



海外県人会ホームステイ派遣事業

本県の若い世代が海外の県人会でホームステイ及び諸活動を通して、海外へ雄飛したウチナーンチュの歴史や生活を学び、派遣先国地域や県人会コミュニティ等との交流を経験することで、世界に広がるウチナーネットワークの認識を深め、国際感覚に優れたウチナーネットワークを担う次世代の育成を図ることを目的とする。

実施期間：2011年8月15日(月)～2011年8月28日(日)

参加人数：12名(高校生11名、専門学校生1名)

プログラム随行者

山城 拓也 (沖縄県交流推進課)

岸本 佳子 (沖縄NGOセンター)

沖縄県海外県系人ホームステイ受入プログラム

本プログラムは、海外県系人子弟等が沖縄県内におけるホームステイを通して、県民との交流や沖縄の歴史・文化・自然などの体験学習、学校への体験入学、ルーツの地域との交流により、母県・沖縄に対する理解と絆を深めるとともに、海外県系人社会の発展とウチナーネットワークを担う次世代の人材育成に貢献することを目的とする。

実施期間：2011年10月7日(金)～2011年10月17日(月)

参加者人数：5名

プログラム随行者

山城 拓也 (沖縄県交流推進課)

大仲 るみ子 (沖縄NGOセンター)

事業実施機関

特定非営利活動法人 沖縄NGOセンター

〒901-2211 沖縄県宜野湾市宜野湾3-23-52 1F

電話 098-892-4758

FAX 098-941-6812

事業経過

〈派遣事業〉

日 程	内 容	場所・その他
5月20日	派遣者募集告知	全学校へ配布
6月10日	申込み〆切 30名の応募	
6月14・15日	応募者面接	沖縄県庁
6月16日	参加者決定通知	
7月9日	第1回オリエンテーション	JICA沖縄国際センター（浦添）
7月23日	第2回オリエンテーション	JICA沖縄国際センター
8月9日	第3回オリエンテーション	JICA沖縄国際センター
8月15日	米国（ジャクソンビル）へ向け出発 米国（ジャクソンビル）到着 ワシントンD.C.へ向け出発	那覇空港－成田空港－アトランタ －ジャクソンビル 那覇空港－羽田空港－デトロイト －ワシントンD.C.
8月25日	米国（ジャクソンビル）より日本へ向け 出発	ジャクソンビル－アトランタ －成田空港
8月26日	米国（ワシントンD.C.）より日本へ向け 出発	ワシントンD.C.－デトロイト －羽田空港
	米国（ジャクソンビル）より那覇空港着	羽田空港－那覇空港
8月28日	米国（ワシントンD.C.）より那覇空港着	羽田空港－那覇空港
9月10日	帰国報告会	JICA沖縄国際センター

〈受入事業〉

日 程	内 容	場所・その他
7月11日	参加者募集開始	
8月5日	応募〆切	
8月7日	参加者決定	
8月12日	受入ホストファミリー募集開始	
8月21日	受入ホストファミリー決定	
10月3日	ホストファミリー説明会	JICA沖縄国際センター
10月7日～ 10月17日	受入事業 実施期間	

海外県人会ホームステイ派遣事業 報告

平成23年度海外県人会ホームステイ派遣（ジャクソンビル）

平成23年8月15日～平成23年8月27日

月 日	時 間	内 容	場 所
① 8月15日 (月)	10:40	那覇空港発→成田空港乗り継ぎ アトランタ経由→ジャクソンビル到着	那覇空港 成田空港 ジャクソンビル
② 8月16日 (火)	終日	ホストファミリーと共に過ごす	ホストファミリー宅など
③ 8月17日 (水)	午前	チェロキーへ向けて出発	チェロキー
④ 8月18日 (木)	終日	チェロキーを見学	チェロキー
⑤ 8月19日 (金)	午前 午後	チェロキー見学 チェロキー出発→ジャクソンビル	チェロキー
⑥ 8月20日 (土)	午前 午後	ホストファミリーと過ごす ジャクソンビル県人会との交流会	ジャクソンビル
⑦ 8月21日 (日)	午前 午後	キティーホークへ キティーホーク見学	キティーホーク
⑧ 8月22日 (月)	終日	キティーホーク見学	キティーホーク
⑨ 8月23日 (火)	終日	ジャクソンビル高校見学 コミュニティーカレッジ見学	ジャクソンビル
⑩ 8月24日 (水)	午前 夕方	ホストファミリーと過ごす 県人会お別れパーティー	ジャクソンビル
⑪ 8月25日 (木)	6:00	ジャクソンビル出発→アトランタ経由 アトランタ出発→成田	移動
⑫ 8月26日 (金)	16:50	成田着 東京見学	移動 東京
⑬ 8月27日 (土)	15:00 17:30	羽田出発 那覇空港到着	移動



平成23年度海外県人会ホームステイ派遣（ワシントンDC）

平成23年8月15日～平成23年8月28日

月 日	時 間	内 容	場 所
① 8月15日 (月)	20:50	那覇空港発→羽田空港着	那覇空港 羽田空港
② 8月16日 (火)	6:55 9:05	羽田空港→デトロイト経由 ワシントンDC到着 歓迎ランチ会（ベトナム料理） エデンセンター見学、ホストファミリー宅へ移動	移動 エデンセンター
③ 8月17日 (水)	終日	ホストファミリーと過ごす	ホストファミリー宅
④ 8月18日 (木)	終日	ホストファミリーと過ごす	ホストファミリー宅
⑤ 8月19日 (金)	終日	ワシントンDCと沖縄コネクション・デー ワシントン・モニュメント見学、第二次世界大戦 メモリアル、ジャパニーズアメリカンメモリアル	ワシントンDC
⑥ 8月20日 (土)	終日	ホストファミリーと過ごす グループ・アクティビティ・オプション	
⑦ 8月21日 (日)	11:00 ～午後	沖縄会ピクニック	メリーランド州 ケビン・ジョン公園
⑧ 8月22日 (月)	終日	ニューヨークシティー日帰り旅行 エリス島、自由の女神、ワールドセンター、 セントラルパーク、エンパイアーステートビル	ニューヨークシティー
⑨ 8月23日 (火)	終日	ホストファミリーと過ごす 周辺見学、観光	ワシントンDC
⑩ 8月24日 (水)	終日	ホストファミリーと過ごす オプション・ツアー (ミュージアム オブ ナショナル ヒストリー)	ワシントンDC
⑪ 8月25日 (木)	6:00	ホストファミリーと過ごす	ワシントンDC
⑫ 8月26日 (金)	16:50 17:14	さよなら昼食会 DC空港発→デトロイト経由	ヴァージニア州
⑬ 8月27日 (土)	22:30	デトロイト→羽田空港着	移動 羽田泊
⑭ 8月28日 (日)	16:00 18:30	羽田空港発 那覇空港着	移動



◆米国（ジャクソンビル）

1日目：8月15日（月）
10：40 那覇空港発→成田空港→米国アトランタ経由→ジャクソンビル到着（日付が変わった8月16日夜中1時）。ジャクソンビル県人会の方々と一緒にレストランへ行き、それぞれのホームステイ先へ移動した。
2日目：8月16日（火）
各ホストファミリーとの時間 ペコボールが楽しかった。ウチナンチュの焼き鳥屋さんがおいしかった。Japanese Shopの従業員さんに石嶺の人を発見！とても嬉しかった。
3日目：8月17日（水）
チェロキーへ向けて出発。7時間かけてようやく到着した。アメリカで最大の個人邸宅ビルトモアハウスを見学。アメリカに来て初めての観光がビルトモアハウスだったので、ヨーロッパに来たのか？と勘違いしそうになった。とにかくアメリカは何もかもが大きいと実感。
4日目：8月18日（木）
チェロキー：Indian Reservationを見学。インディアンの生活風景をのぞいてきた。インディアンの生活は知恵を出して生きているのだと分かった。インディアンの踊りも独特だった。明日はチェロキー最終日だ。明日も頑張ろう。
5日目：8月19日（金）
チェロキー：アメリカの旗が立っているチムニーロックを登った。暑くて、階段も急でとても大変だったけれど、上からの景色がとても良かった。車に10時間くらい乗って、夜中に家に着きました。今日思ったことは、やっぱりアメリカは広い。
6日目：8月20日（土）
午前はホストファミリーとの時間。午後は、ジャクソンビル県人会の方々と交流会。新しい友だちができ、みんなで英語でおしゃべりをした。2次会は琉球國太鼓の会長のお家であった。ジャクソンビルの人たちとエイサーも踊った。いろいろな年代の人と交流が出来て本当に良かった。
7日目：8月21日（日）
キティーホークへ車で4時間かけて到着。ライト兄弟の飛行の記録を見たりした。あの当時は、人が走るより飛行機が遅かったということが発覚。夜はプールに入りに行った。知らない子どもたちに声をかけて一緒におにごっこをした。
8日目：8月22日（月）
キティーホーク：大きな灯台に行った。移動風景がとても面白かった。灯台のデザイン（模様）も面白かった。昼からは船に乗って島から出た。夜は沖縄料理の店で沖縄そばを食べた。おいしかった。
9日目：8月23日（火）
ジャクソンビル高校とコミュニティーカレッジを見学。高校の人たちはみんな面白くて、友達になれてよかった。帰ってからも交流したい。コミュニティーカレッジでは、先生から話を聞かせてもらいました。あまり理解できなかつたけれど、頑張っけて聞いていました。

10日目：8月24日（水）
<p>ホストファミリーとの時間 午後からジャクソンビルあたりのショッピングモールに行った。夜には県人会の方々がお別れパーティーをしてくれた。バイキングもおいしくて、パーティーではみんなからお土産をもらってとても感動した。一言あいさつ、あまり上手く出来なかったけれど、みんながいいこと言ってくれて本当に感動したし、このようなパーティーを開いてくれたことに感謝した。</p>
11日目：8月25日（木）
<p>最終日。お別れするとき、県人会の方々がたくさん朝早く集まってくれていて、その時点で涙がこらえきれなくなっていた。また絶対来ようと思っているので、その時までにはまた気持ちを切りかえたい。6：00ジャクソンビル発→アトランタ経由</p>
12日目：8月26日（金）
アトランタ→成田空港到着（16：50）
13日目：8月27日（土）
羽田→那覇空港17：30到着

◆米国（ワシントンD. C.）

1日目：8月15日（月）
20：50那覇空港発→羽田空港
2日目：8月16日（火）
<p>羽田空港→デトロイト経由→ワシントンD. C. 到着（9：05） エデンセンターにて歓迎ブランチ会（ヴェトナム料理店にて）、エデンセンターのミニ見学。 それぞれのホストファミリー宅へ</p>
3日目：8月17日（水）
<p>ホストファミリーとの時間：おみやげをプレゼント。方言が書かれたファイルはとても喜ばれた。方言を使って差別された時期もあったと言っていたけれど、今は方言を使っている人も少なくなってきたから、やはりこのような文化は大切に残さなければいけないと思った。</p>
4日目：8月18日（木）
<p>ホストファミリーとの時間：車で3時間かけてダッチという町に連れて行ってもらった。ここには、アーミッシュと言って、電気とかを使わずに、昔の生活のまま暮らしている方々がいるみたい。実際に馬車で買い物に来ている人もいたし、またお店も馬専用の駐車場とかも用意してあった。沖縄ではない光景。</p>
5日目：8月19日（金）
<p>D. C. ツアー：今日はついにアメリカの首都ワシントンD. C. ! Japanese American Memorialでは、テリー・シマさんが来てくれて、細かく説明してくれた。たくさんの人の傷が記念碑に刻まれているんだと感じた。そして国会議事堂はとにかく広くて、1つ1つの物が美しかった。ワシントンモニュメントは大きかったー！今日はアメリカと沖縄とのつながりを感じることができた。</p>

6日目：8月20日（土）
<p>ホストファミリーとの時間 今日は朝からハーシー・パーク。到着して人の多さにびっくり。それからワゴンに乗ったりしながらプールに移動。ミュージカルにも連れて行ってくれた。チョコレート工場はかなりテンションが上がった。</p>
7日目：8月21日（日）
<p>ワシントンD.C. 沖縄会のピクニック：沖縄会の80名くらいの人たちが来ていた。準備していた沖縄の紹介と空手と三線の披露もした。雨と雷で披露できないものもあったけど、みんなで屋根の下に集まって、カチャーシー大会をして、より一体感を感じることができた。</p>
8日目：8月22日（月）
<p>ニューヨーク：D.C. から4時間かけてバスでニューヨークまで行った。エリス島では、移民者の苦勞を学んだ。9・11メモリアルは未だに修理できていないビルを見るとその事の重大さがとてつもないのだと実感した。タイムズスクエアも歩いた。</p>
9日目：8月23日（火）
<p>ホストファミリーとの時間：今日はロックビルにあるホストファミリーの習字教室の見学に行った。生徒さんはハーフの小さい子どもたちで、まさかアメリカでこんな風景見れると思わなかったのが新鮮。ホストの子どもも一生懸命漢字勉強していた。</p>
10日目：8月24日（水）
<p>ホストファミリーとの時間：ナショナル・ミュージアムで働く知念じゅんこさんにお会いすることができ、いろいろな話を聞くことができた。世界に飛び立って様々なことを吸収することはいいことだけれど、常に自分自身の故郷を忘れずいつも大事にすることはとても大切だと感じた。</p>
11日目：8月26日（木）
<p>ホストファミリーとの時間：ペンシルバニア観光。昔のペンシルバニアのパークに行った。日本とは正反対の町並みが広がっていておとぎの話の中に来たみたい。ホストマザーの誕生日で、近くのレストランに家族全員集合。家族を大切にする文化がもっと日本にも伝わるといいな。</p>
12日目：8月27日（金）
<p>最終日：ヴァージニア州でさよなら昼食会をした。ホストファミリー、沖縄会のももこさん、いつこさんも来てくれた。みんな1つの家族になれた感じがして嬉しかった。今までの思いが込み上げて泣いてしまったけれど、最後は皆笑顔で送ってくれた。17：14 D.C. 空港発→デトロイト経由</p>
13日目：8月27日（土）
<p>デトロイト→羽田空港着（22：30）</p>
14日目：8月28日（日）
<p>羽田→那覇空港着（18：30）</p>



米国・ノースカロライナ州ジャクソンビル

番号	名前	読み方	所属
1	中野 潮李	SHIORI NAKANO	向陽高等学校
2	宮城 愛里	AIRI MIYAGI	名護高等学校
3	宮里 佳吾	KEIGO MIYAZATO	豊見城高等学校
4	田邊 伸吾	SHINGO TANABE	沖縄尚学高等学校
5	川畑 容	IRURU KAWABATA	沖縄尚学高等学校
6	仲間 彩乃	AYANO NAKAMA	浦添高等学校
随行	山城 拓也	TAKUYA YAMASHIRO	沖縄県交流推進課

米国・ワシントンD.C.

番号	名前	読み方	所属
1	比嘉 友里乃	YURINO HIGA	読谷高等学校
2	知念 祐弥	YUYA CHINEN	陽明高等学校
3	兼城 睦	MUTSUMI KANESHIRO	沖縄フライダルモード学園
4	糸数 なつき	NATSUKI ITOKAZU	那覇国際高等学校
5	荒井 奈つ乃	NATSUNO ARAI	沖縄尚学高等学校
6	普久原 朝日	ASAHI FUKUHARA	浦添高等学校
随行	岸本 佳子	YOSHIKO KISHIMOTO	NPO法人沖縄NGOセンター



派遣までの日程確認や派遣先についての事前学習、参加者同士の連帯感や意識を高めるために、全3回の研修を行った。ご協力いただいた講師、団体の皆様に心より感謝申し上げます。

□第1回オリエンテーション

日時：2011年7月9日(土) 10:00-17:00

場所：JICA沖縄国際センター セミナールーム201

内容：保護者説明会、本事業目的の確認、参加者同士のコミュニケーション、沖縄移民についての事前学習、OB/OG体験談

配布資料：研修資料(保護者用・参加者用)

(事業概要、ホームステイ日程、ホームステイ心構え、派遣先情報、沖縄移民について、参加者一覧、事前学習調べノート(伝えたい沖縄、派遣先で調べたいこと)、日常英会話集)

OB/OG参加者：池原ななえ、奥山有希、喜久里瑛

□第2回オリエンテーション

日時：2011年7月23日(土) 10:00-17:00

場所：JICA沖縄国際センター セミナールーム201

内容：沖縄移民についての調べ学習の発表、派遣先で伝えたい沖縄の材料探し、調べ学習

□第3回オリエンテーション

日時：2011年8月9日(火) 10:00-17:00

場所：JICA沖縄国際センター ニライホール

内容：伝えたい沖縄の仕上げ作業、発表練習、救急救命講座、最終確認

講師：救急ボランティア協会「命手」(上原有美子さん、山城さん)

□ワシントンD.C.組盆踊り練習

日時：2011年8月11日(木) 10:00-12:00

場所：首里公民館

講師：首里地区民謡指導者会の皆様

□帰国後報告会

帰国後、事前学習からホームステイ派遣中までを振り返り、体験報告。

日時：2011年9月10日(土) 13:00-15:00

場所：JICA沖縄国際センター ニライホール

参加者：ホームステイ参加者、参加者家族、OB/OG、事業関係者

◆米国（ジャクソンビル）

「ホームステイを終えての感想」

沖縄尚学高等学校 1年 川畑 容

最初、自分はジャクソンビルのイメージはすごい田舎だと思っていました。飛行場もすごい小さく、田んぼしかないんだろうと思いました。でも、次の日町に出たら、想像以上に都会で、とても楽しめそうだと思いました。県人会の皆様も、とても親切にしてくれて、とても楽しめました。一番びっくりしたことが日本食のお店があることでした。外国へ行ったら日本食の店や日本で売られているものはほとんど売られていないだろうと思っていたので、とてもびっくりしました。



他にも県人会の人たちと一緒にチェロキーやキティーホークなど色々なところを観光できてとても良かったと思いました。ジャクソンビルの学校はとても広く、日本みたいに上に大きいではなく、横に大きく作っていて、1階だけで、2階はありませんでした。校舎も結構分けられていて、とても不思議な作り方でした。ホームステイ先の家族はとても沖縄好きで、三線や沖縄の組踊の人形などたくさん沖縄のものを持っていました。

「ホストファミリーバンク事業に参加して」

沖縄尚学高等学校 2年 田邊 伸吾

僕がこの事業に参加したきっかけは、海外に移民していったウチナンチュに会い、現地でのどのような暮らしをして、どのようなことをしているのかを学ぶためでした。一度選考で外れましたが、辞退者がでて、参加することができました。最初、僕はジャクソンビルがどこにあるのか、見当もつきませんでした。そのため、ジャクソンビル空港に降り立った時までは、「こんな田舎に…」とっていて、ワシントンD.C.に行きたがっていました。しかし、現地につくと、とてもたくさんのウチナンチュの方々に温かく迎えて頂き、とても嬉しかったです！



僕がジャクソンビルでの生活で一番思い出に残ったことは、何と言っても誕生日です。実は、ジャクソンビル滞在2日目である8月16日は、僕の17歳の誕生日でした。それをジャクソンビルの方々に話すと、すごくよくおもてなしをして頂いて、その日だけで4つもケーキを食べました。さらに、いろいろとサービスもして頂いて、とても嬉しかったです。他にも、チェロキーのインディアンビレッジや、キティーホークのライト兄弟の飛行場など、様々な所を訪れました。

僕を今回受け入れて下さったルウェック米子さんは県系1世の方で、とても優しい方でした。旦那さんであるデービットさんもとても優しく、面白い方で、お孫さんのカイヤちゃん、マイリちゃんもとても明るい子供たちで、僕ともう1人一緒にホームステイした川畑容君を本当の家族のように扱ってくれました。別荘があって（その時点でなかなかお金持ちの気が…）、そこでバギーに乗せてもらったり、ボートに乗せてもらったりと、いろいろなアクティビティを経験させてもらいました。帰りはとても寂

しくて、「またみんなでジャクソンビルに来るから！」とみんな口をそろえて言っていました

帰ってきて、1ヵ月後…「第5回世界のウチナンチュ大会」が開かれました。そこでまたジャクソンビルの方々と再会できて、本当に嬉しかったです。さらに色々な世界のウチナンチュの方々と仲良くなれて本当に良かったです。

今回この事業に参加して、僕は世界にますます目を向けることを学ぶことができたと思います。これから先、どういう人に会うかわかりませんが、今回世界のウチナンチュの方々が共通して持っていた「ウチナンチュヌチムグクル」を大切にしてくださいこれから生きていきたいと思います。

最後になりましたが、このような機会を毎年設けてくださっている沖縄県の方々、今回引率して下さった沖縄県文化観光スポーツ部交流推進課の山城拓也さん、そしてアメリカに行かせてくれた両親に心より感謝します。

「ホームステイを終えての感想」

浦添高校 2年 仲間 彩乃

私は、今回のこの県人会ホームステイに参加してほんとうに良かったなと思っています。県人会ホームステイでは、沖縄の方々と交流があり直接移民の体験談を聞くことができるという、普通のホームステイでは味わえないようなたくさんの経験をさせてもらえました!!!



私が行くことになったジャクソンビルは、とても自然いっぱいのところ、おおらかで優しい人たちがたくさんいて、雰囲気は沖縄によく似ているところでした。田舎と聞いていたので、お店もあんまりないのかな?と聞いていたのですが、結構ありました。そのお店の中には、沖縄県人の人が経営している飲食店やストアなどもありました。飲食店ではすごいことに沖縄そばやゴーヤーチャンプルーそして、沖縄の中味汁といった沖縄の食べ物があったり、ストアは沖縄に食品店などでも売られている食材がたくさんおかれていました。沖縄の人たちがこんなにも海外で活躍していることをまのあたりにしてとてもびっくりでした。

また、2泊3日の旅では、インディアンの街に行っただけでほんとうのインディアンを見たり、アメリカ最大の個人邸宅であるビルトモアハウスを訪問したり、チムニーロックという岩に登ったりといろんなところへ行き、1泊2日のキティーホークの旅では、ライト兄弟が初めて飛行機を飛ばしたところに行ったりとNCの西と東を車に乗って旅して楽しかったです。こんなに楽しく旅をすることができたのも、県人会の方々の協力があったからだと思っています。本当に感謝です!!!

私をはじめ訪れたアメリカがジャクソンビルでほんとうに良かったです!!これで終わりではなく、今回が自分の将来のはじまりとなるよう一生懸命頑張っていきます。

「ホームステイを終えての感想」

向陽高等学校 2年 中野 潮李



私が今回ジャクソンビルという小さな町にホームステイをして思ったことは、とても人が明るく、朗らかで、何より現地での生活を楽しまれていた、ということです。最初はワシントンではなく、名前も知らないような町に行くのは、正直とても不安でした。10日間の現地滞在という短い期間の中で、私を感じ取れた事はとても大きく、大切なものであったと思います。私は、「移民」と呼ばれる人たちがいらっしゃるということは知っています。しかしそれは、日本からの「移民」ではなく、よもや沖縄からの「移民」と呼ばれる方がいらっしゃるということなど、知りませんでした。そのような状況であった私が、“県人の方々が移民なされている”と知り、なぜ、どのような形で移民という形を取られたのかということに興味を持ち、今回のホームステイに参加したことで、その興味がより広く活かされることになったと思います。

外国へ行き、現地の方々の家にホームステイをさせていただく。このようなまたとない機会では初の海外渡航をしました。アメリカという所でまず第一に思ったのが、とてつもなく広い！ということでした。NCの中を移動するにしても、8時間や4時間はかかり、時差ホケしている中での移動は正直しんどいと思う時もありました。しかし、その中でも、ハツ子さんなどを含めた県人会の方々がとても明るく接して下さったのが、印象的でした。食事にしても、アメリカの少し重たいごはんの間に沖縄料理が入ってくるのが、何故？と思うときもありましたが、とてもおいしく、本当に沖縄料理のおいしさを実感しました。

今回の旅で私は、たくさんの人に出会うことができました。県人会の皆様、このような素敵な旅を用意して下さいました。そして協力をしてくれた家族に感謝をいっばいです。ありがとうございました。そして、もう一度皆に会いたいと思っています。

「今回のホームステイでの感想」

名護高等学校 2年 宮城 愛里



私は中学校に入った頃位からずっと「アメリカに行きたい」という願望がありました。しかし、なかなかチャンスがなく、この願望は願望で終わるのかなと思っていました。高校2年になって、朝のSHRの時、担任の先生が県人会のホームステイ事業の募集があると聞いて、「これだっ!!」と思って、すぐ親に相談しました。両親は頑張ってみなさいと背中を押してくれました。私はこの事業に参加することで絶対自分の考え方や、今までの行動などをプラスに変えられると思いました。休み時間に担任の先生と面接の練習をして、本番の面接をむかえました。とても緊張したけど、自分はどうしてもこの事業に参加したいんだというのを伝えました。そして、結果が届いて受かったと聞いた時は、本当にもううれしかったです。この事業に向けて、3回ほどオリエンテーションをして、移民のことを学び、学んでいくうちに、興味がどんどんわいていくのを感じました。一緒に参加するメンバー達とも仲良くなって行って本当にすぐに友達になりました。

そして、出発の日、もう本当にわくわくのドキドキでした！ 私はJacksonvilleメンバーで到着したとき、Jacksonvilleの県人会の方々が迎えてくれて本当にwelcome感がすごくてうれしかったです。皆さんあたたかくて、面白くて、ホストファミリーの方達もすごく優しくかったです。アメリカでの生活は本当に毎日が最高でHappyでした。ずっと夢に見ていたアメリカに行くということが叶って、今その場にいるということが本当にうれしかったです。ホストファミリーと県人会の人達と色々な所に行って本当にいい経験をさせても

らいました。いろんな人達とふれ合って、しゃべって、どんどん、自分のなかでいろんなものがかわって
きました。歓迎会でも、たくさんの人たちと出会えて楽しかったです。アメリカに住んでいる県人の方々は、
本当に沖縄のことが好きなんだなあと思いました。沖縄の話をする、身を乗り出して語り出してきて、本
当にあつかったです。どこに住んでいても、沖縄人という心は、まったくかわらないんだなあと思いました。
そして、こうやって、海外で活躍して暮らしている沖縄人の人達を目にして、私もこういうふうになりたい
と強く思いました。沖縄に帰って、今感じる事は私の中でこの事業に参加したことで色んなものいい方に
かわった気がします。私の将来にも大きく変化があつたし、学校生活も、その将来のためによりいっそう、
真剣に取り組むようになりました。それはこの事業に参加しなかつたらできなかつたと思います。私は、自
分の中でいろいろかわれて、プラスに考えることもできて、本当にホームステイをして良かったです。人生
で大きな経験になりました。

「アメリカ」

豊見城高校 3年 宮里 佳吾



僕は今回のプログラムに参加できて本当に良かったと思っています。とても良い
経験だと思っています。最初は英語もしゃべれませんが、アメリカに行ったことも
無かったので、期待より不安の方が大きかったです。でも勉強会など行っているう
ちに、期待も大きくなっていきました。

そして8月にアメリカに行きました。ノースカロライナについたのは夜中だったのに、ホストファミ
リーの方たちがあたたかく迎え入れてくれて本当に安心しました。色々なことが初めての体験で毎日が
本当に良かったです。

1日目はノースカロライナのメンバーのホストファミリーの人とごはんを食べて家に行って寝ました。
2日目は、ショッピングセンターなど行ったり、PXなどにも行ったりしました。3日目はチェロキー
という所に行きました。チェロキーはとても遠くて、車で10時間くらいかかりました。アメリカはとて
も広い国だと実感しました。その途中に、アメリカの中で一番大きい個人邸宅のビルトモアハウスにも
行きました。中は本当に広くて、歴史を感じました。

そしてチェロキーについて、インディアンの生活などをガイドさんと一緒に見て回りました。そして、
最後にやった儀式みたいなことはとても楽しかったです。

そしてチェロキーから帰って来てから次の日に交流会がありました。最初は、交流会はあんまり楽し
くなさそうと思っていました。でも、交流会は楽しくてビックリしました。でも2次会の方がもっと楽し
くて、同年代の子たちと交流が出来て本当に良かったです。

次の日もまた車で何時間かかけて、ライト兄弟がいたキティーホークに行きました。昔の偉人がいた
ところだったのでごく感動しましたし、ライト兄弟の色々な事も聞けて良かったです。そして、ホス
トファミリーの家に帰って来て、最後のホストファミリーと過ごす日は、みんなでバトルシップを見に
行ったり、ショッピングなどに行きました。最後の日だったけどとても楽しかったです。でも、本当に
さびしくなりました。本当に日本に帰りたくないと思ってました。

そして帰る日は朝が早く、ちょっとアクシデントもあって、ホストファミリーとはちゃんと話せなかつ
たけど、ありがとうと言いました。このプログラムで、日本以外の所に行き、知らない人と交
流することも大事だと感じました。このプログラムに参加できて本当に良かったです。

◆米国（ワシントンD. C.）

「ワシントンホームステイに参加して」

那覇国際高等学校 1年 糸数 なつき



私はこの旅がとても昔のように感じられます。出発当日、私は現地の方々に早く会いたくて仕方がありませんでした。そして大きな期待と声援に見送られ、沖縄を旅立ちました。長時間の飛行でテンションも上がってきた頃、空港でホストファミリーの方々が横断幕を持って迎えてくれました。到着したその日は、ホストファミリーの方々と歓迎ランチ会でした。ホストファミリーとはもちろん初対面で、最初は少し緊張していましたが私たちのことを本当に心待ちにしてくれていたみたいで様々な話で盛り上がり、すぐに打ち解けることができました。

最初のホストファミリーと過ごす2日間は、ショーシワシントンのマウント・バーノンへ行ったり、同じヴァージニア州に住んでいる県人会の方々とすごしました。次の日は、アメリカの首都ワシントンD. C. へ行き建物の迫力を感じることができました。全米日系人記念碑の前で聞いた、テリー・島さんの話は印象深かったです。実際に戦争を経験した本人から直接話を聞くことができ、当時の県民の思いを感じることができました。そして、U. S. キャピタルやワシントンモニュメントの観光をしました。D. C. は見るところがたくさんあり1日じゃとても足りないなと思いました。

8月21日の公園で行ったピクニックは約100名近くの県人会の方々が来てくれて、たくさんの人と交流することができました。その日は、方言で会話をするおじちゃんがいったり、民謡が流れていたり、沖縄のお祭りに来ているような気分でした。また子供たちに沖縄や日本のおもちゃ作りを教えていて、とても嬉しく思いました。様々な形で文化を受け継いで大事にしているんだと感じました。そしてパフォーマンス披露でダンスをする予定でしたが、天候によりできなかったのはとても残念でした。しかし三線の音に合わせて現地の方々と踊ったのはとても思い出に残っています。ウチナンチュのみなさんは、三線の音色を聞くだけで掛け声をあげながら、自然に踊りだしていました。やはりどこにいてもウチナンチュという心は変わらず、ゆいまーる精神が強いなと感じました。

ピクニックの翌日は、もっとも楽しみにしていたニューヨーク日帰り旅行でした。建物や景色、見るものすべてがとても新鮮でした。あの有名な自由の女神やエンパイアステートビル、年明けの時とても盛り上がるタイムズスクエアなどに行きました。テレビや映画で見たことのあるものばかりで興奮しっぱなしでした。やはり生で見ると、色や美しさ、何より迫力が全然違って、世界は広いなと感じました。しかしその反面、9・11の悲惨さやテロ当時のことも詳しく知りました。テロがあったビルの近くは雰囲気は全く違って、緊張感につつまれていました。そして私たちは二度とこのようなことが起こらず、楽しい町であってほしいと願いました。往復10時間かけて行くという長旅でしたが、とてもあっという間でした。最初はバスに乗り遅れ、行けないかと心配でしたがニューヨークで誕生日も迎え、最高の1日となりました。

その後も、ショッピングや2回目のD. C. 観光などとても充実した日々を送っていましたが、気がつけばもう帰る日が近づいていました。10日間というとても短い旅でしたが、たくさんの人と出会い仲良くなることができたので、別れのときはとても辛かったです。

しかし現地の方々から学んだことを私たちが伝えていくことが大切だと思いました。県人会の方々の沖縄に対する思い、何事にも前向きに取り組む姿勢、なによりウチナンチュとしての誇りに感動しま

した。私たちもいつでも故郷を大切に、ウチナンチュ同士の助け合う心を生かし、世界のネットワークを広げていきたいです。そして来月また元気に再会できることを楽しみにしています。最後にこのホームステイ派遣事業に関わってくれた、すべてのみなさんに感謝します。
ありがとうございました。

「ホームステイを終えての感想」

沖縄尚学高等学校 2年 荒井 奈つ乃

私は、今回のホームステイプログラムに参加して本当にたくさんの素晴らしくて貴重な体験をすることができました。また、ホストファミリーの方々もとっても温かい人で、まるで本当に家族みたいに接してくれたし、本当の家族くらい大好きになりました。また、アメリカの現地の人々の生活に直に触れて感じたことは、夏休みということもあったと思いますが、時間がとてもゆっくり流れているなと感じました。そして、沖縄を2週間離れてみることによって、アメリカと比べて、さまざまな角度から沖縄を見ることができるようになりました。私の中での一番の変化は、価値観が大きく変わったことです。以前は小さなことで悩んだり不安に思ったりしていましたが、このプログラムを通して、10日間アメリカで生活してみて、母国を離れ、異国で生活している人々の話（県人会の皆さんの）とかを聞かせてもらうと、以前の自分がとてもちっぽけに思えて、私が思っている以上に自分には、自分の行動や考え次第で、どんな可能性もあるんだなって気付くことができました。



また今回の経験は、将来に向けて私の大きな自信にもなりました。世界にコネクションがあるということは、何か行動を起こす時などにあたって、すごく大きな行動力や自信につながるって確信しました。これらも、このホームステイや海外の沖縄会の人々との交流をスタートとして大きく前進して行きたいです。

「ホームステイを終えての感想」

浦添高等学校 2年 普久原 朝日

最初は少し不安だったけど、終わってみると、アメリカが大好きになってまた必ずアメリカに行こうと思った。沖縄の歴史とか学ぶことも少ないけど、今回のホームステイでは、多くのことを学べたし、なにより体で感じとることができてすごくよかった。日本にいて日本を見るのと海外にいて日本を見るのとでは、見える世界が違うし、普段見えないことも見えてよかった!!



アメリカにいて思ったことは、日本は少子高齢化だなと思いました。アメリカは朝の町は大人が多い感じだったけど、夜は若い人たちがとてもたくさんいました。日本だと若者と年寄り半分ずつくらいだったけど、アメリカは若者：年寄り＝9：1くらいでした。ほかに、人種の多さにもびっくりしました。日本だと日本人だけという感じですが、アメリカだと4割がアメリカ人で6割が外人という感じでした。アメリカでは新しいアイデアが生まれやすいと思いました。

「ホームステイを終えての感想」

読谷高等学校 3年 比嘉 友里乃



アメリカへ行く前に、海外に行ったことはあったけど、ホームステイをするのは初めてでした。最初は不安もたくさんあったけど、ホストファミリーのあっこさん & ジェリーさんに会ってその不安もふっとびました。ホストファミリーと過ごした時間もとても楽しかったです。ワシントンD.C.の観光もワシントンモニュメントやスミソニアン博物館などいろいろなところを見れてとてもよかったです。でも、熱中症で倒れてしまって、たくさんの人に迷惑をかけてしまいました。そのせいで、国会議事堂のツアーに参加できなかったのがとても残念です。次にアメリカへ行く機会があれば、ぜひ国会議事堂のツアーに行ってみたいです。

21日は、沖縄会のピクニックに参加しました。その日は、自分の誕生日で沖縄会の会員約100名の方々に18歳の誕生日を祝ってもらいました。余興の時には、雨 & 雷のハプニングがあり、三線と空手しか披露できなかったけど雨が降ったなりの楽しさがあった、とても楽しかったです。

22日は、一番楽しみにしていたNew York日帰り旅行でした。フェイクの自由の女神に5ドルをせびられたり、いろいろとハプニングがあったけど、とても楽しかったです。帰国の時には、アメリカから離れたなくなるくらいとても楽しかった10日間でした。沖縄に帰ってきてからも逆ホームシックになって大変でした。また、機会があればアメリカに行きたいです。10月の世界のウチナーンチュ大会でホストファミリーに会えるのを楽しみにしています。

「ホームステイを終えての感想」

陽明高等学校 2年 知念 祐弥



初めてホームステイの話聞いた時に、「これだ!」と思いました。県が補助してくれるし、この話の前に一度留学したいと思っていたけど、1年学校を休学的な感じじゃないと行けなかったのが、それがいやでやめました。でもこれは、全部で2週間という短い期間でしたが、自分は野球もあるのでちょうどいいし、アメリカには10日間しかいなかったけど、やっぱり行かないよりはいいと思って申し込んだのですが、実際に行けば10日間ではものたりなく、野球はしなくていいから、ずっといたくなってしまうました。その理由は、最初は写真を見てとても怖いと思ったホームステイ先の人がとても優しく、おもしろく、最高な人だったので帰りたくはなかったです。

それでも最初の3日間は英語が全然聞けずについて、ホームステイの父、子供とは話せなかったのだから早く帰りたいと思っていました。僕の人生で2回目の壁「言葉の壁」というものにぶちあたりましたが、ホームステイ先のお母さんに英語を教えてもらったり、ホストファミリーとがんばってお話したりしていくうちに、どんどん聞けるようになっていくのが分かって、最後には簡単な言葉なら話せるし、少し難しいのは聞けるのは聞けてました。細かく言えば、自分のホームステイ先には9日間しかいませんでした。それは、ホームステイ7日目のNYの前日、時間と場所の関係で、朝日君のホームステイ先、ワーデルさん宅に泊まったからです。そのNY、そして4日目のワシントンD.C.などの世界の中心に行けてよかったです。

このホームステイでは夢がたくさん叶いました。NY、ワシントンD.C.の前に、まず“アメリカ”そして、おまけに東京まで。自分の中では東京は高校3年、アメリカは20代で行く予定だったので今思ったらすごい事をしたなと思いました。

沖縄に帰ってきた瞬間に「アメリカ、東京に行かなければよかった」というのがありました。それは、あんな大都市に行った後にこんな小さく、見なれた場所へ帰ってきてテンションからやる気からすべて下って現実に引き戻されてしまいました。ですが、今はもうなれて大都市と比べるとやる気は下がりますが、そこでの経験、思い出はとてもよかったので「行ってよかった」と思えます。行って一番よかったのは大学で何をしようか見つけたことです。アメリカに行った後、留学したいと思いました。10日間で少しできるようになったので、1年で完ぺきにしたいと思います。そして東京で働くのが僕の夢です。ちなみに、最後の4日間は熱出た。

「ホームステイを終えての感想」

沖縄ブライダルモード学園 兼城 睦



初めてのアメリカ。最初に思ったことは、人も建物も、食べ物も、とにかくにもかかもがデカイ!!!! ショッピングセンター楽しすぎました(笑)。それから、アメリカはやっぱり皆さんフレンドリーで笑いの絶えない国だなあと思いました。アメリカの歴史や文化にふれて、アメリカの家庭料理やいろんな食べ物を食べて、たくさんの人と出会い、楽しいホームステイ生活をおくることができました♪ 言葉がうまく話せなくて、コミュニケーションがとれなく落ち込む事もありましたが…(泣)。

みなさん優しく接してくださり、ますますアメリカが大好きになりました。次は言葉を覚えてまたアメリカに行きたいと思います♪ そして、みなさんともっとお話がしてみたいです。

8月16日～26日の10日間 Pirrone 家にホームステイに行き、みなさん本当の家族のように受け入れてくれてとても嬉しかったです。おじいさんはとても優しく、最後にケーキとkissをくれた時は本当に嬉しかったです。Timさんは毎日ヨガをしていて、私もたまにしている話をするとDVDをくれました♪ また会ったら是非一緒にヨガしたいです(笑)。さとみさんは私の好きな Shopping によく連れて行ってくれたり、たくさんのお友達に会わせてくれました。

お金の教え方や、アメリカの文化や言葉を教えてくれたり、本当に感謝、感謝です!! 禅太くんはとっても泣き虫で、でもすぐ笑ってその笑顔がとっても可愛くて、毎日癒されていました(笑)。アイちゃんは、一緒に勉強したり、お絵かきしたり、かけっこしたり、いつも私について来てくれて、妹みたいでほんっと可愛かったです(笑)。

またいつか必ず会いに行きたいと思います。10日間は長いようであっという間でした。

このホームステイを通して出会えた全ての人に感謝、感謝。

Q 1. このホームステイプログラムであなたが最も期待していることはなんですか？
(優先順位の高い順から)

- 1 海外でのホームステイ/海外県人会との交流
 - 2 語学力の向上
 - 3 将来の就職につながるきっかけ/外国の文化・歴史
 - 4 海外経験
- ・その他 (意見を書いてください)
現地の人たちとの交流、写真を撮ること、観光!?, 生活環境
文化の違い、環境の違い、友だちをつくる (コネクション)

Q 2. 海外県人会の家庭でのホームステイということで安心感や、良いイメージなど、
思い描くことがあれば書いてください。

- ・優しい、楽しい、川がいい、ご飯がおいしい
- ・沖縄に興味をもっていてくれて、会話とかできそうで安心している。メールも少しやり取りできてよかった。やさしい人。
- ・同じ沖縄人ということで親近感がわく。優しそう。
- ・ウチナンチュの方々の方々の所へ滞在ということで、共通の話がたくさんあって盛り上がりそう。食がきつなくておいしそう。
- ・少なからず日本語でも通じることです。なるべく英語を使うけど、どうしてもの場合は日本語を使えることが何よりの安心です。
- ・沖縄の1世や2世の人達がいるから沖縄の今昔がわかる！
- ・家庭で1人の人が日本語ができるということで、言語の不安が軽減される
- ・夫婦のどちらかが沖縄出身ということ。メールのやりとりで家族のことや家のこととか知れているので楽しそう。
- ・沖縄から離れてみてのアメリカと沖縄の違いや困ったこと。逆に困ったこととかを、複眼的目線で語ってもらえるような気がします。

Q 3. 今感じている不安なことを素直に書いてください。

- ・やっぱり言葉。言葉がきちんと伝わるか。朝起きれるか。ちゃんと話ができるか。
- ・生活面でのちがい (シャワーなど)、迷子になりそう、英語での会話
- ・ホームステイ先でちゃんと英語が通じるか、体調を崩したりしないか
- ・ないです！ とにかく、いっぱい話して、楽しむー!!
- ・体重が増えて太るかどうかが心配です (笑)
- ・特になし
- ・伝わらなかった時にどう伝えるかが少し不安。
- ・英語がめっちゃできるというわけではないので、自分の気持ちがちゃんと伝わっているのか心配。

派遣者事後アンケート

Q 1. 滞在中、海外のウチナンチュの歴史や生活、ウチナーネットワークを学ぶことはできましたか？（施設見学、ホームステイ、県人会との交流を通して、他）

- ・どのようにしてアメリカに住むようになったかを知った。
- ・できた
- ・どういう形でアメリカの沖縄会の人同士がつながっているかを学ぶことができた。
- ・ホストファザーが博物館へつれていってくれたり、ホストマザーからは戦争体験を聞くことができた。
- ・いろんな場所で学ぶことができた。
- ・県人会とホストファミリーとの交流を通して学びました。
- ・ウチナンチュのよさとかを感じる事ができた
- ・すごく良い自分にとっての勉強になったと思う。
- ・移民した人たちの苦勞を学ぶことができました。
- ・沖縄県人会の人たちを通していろんなことを学ぶことができました。

Q 2. 派遣先の地域との交流はできたか（印象に残っている交流について）

- ・大学生と一緒に遊んだ。パーティーをたくさんした。
- ・ピクニック（3）
- ・教会でのあつまり
- ・ニューヨーク&D.C. 観光
- ・さんぽ、会話、ビリヤード、運動
- ・琉球國祭り太鼓、ジャクソンビル高校
- ・交流会の2次会
- ・学校、USO
- ・おつかれパーティー、ウェルカムパーティー、ホームパーティー、2泊3日の旅

Q 3. あなたが期待したことはこのホームステイツアーでどのくらい達成されましたか？

テーマ

達成度

- | | |
|-------------------|-------------------------|
| ・有名な物を見て、英語を上達させる | (99.9%) ホワイトハウスが見れなかった |
| ・たくさんのウチナンチュとの出会い | (100%) |
| ・コネクション作り | (90%) もっと同年代友達を作れたら良かった |
| ・みんなとつながること | (100%) |
| ・アメリカを学ぶ（文化など） | (120%) |
| ・英語を話せるようになる | (70%) |
| ・楽しむ！！学ぶ！！体験！！ | (120%) |
| ・県人会の方々との交流、語学 | (100%) |
| ・沖縄移民の苦勞や頑張りを知る | (100%) |
| ・語学と交流 | (90%) |

Q 4. 出発前に不安に思っていたこと、行ってみても不安が大きくなったり、問題につながったりしましたか？

- ・はい (0)
- ・いいえ (10)

Q 5. 事前オリエンテーションは役に立ちましたか？ (複数回答可)

- 語学研修 (5) 保護者説明会 (3) 沖縄を伝える学習 (9) 沖縄移民の歴史 (8)
- 参加者同士のコミュニケーション (8) 派遣地からの具体的な情報共有 (1)
- その他

Q 6. その他事前に学んでいたほうがよかったと思うことはありますか？

- ・語学、ワシントンD.C.の観光地
- ・沖縄料理
- ・歴史が苦手なのでアメリカの歴史などを学ぶこと
- ・日常会話のフレーズ
- ・ノースカロライナ州について
- ・もうちょっと語学力をつけてればよかった (2)
- ・ホームステイ地のことについて

Q 7. その他感想、要望・意見などありましたら、書いてください。

- ・次は1ヵ月
- ・これからも出会いを大切に、交流していきたい。ワシントンD.C. 県人会の方々とぜひ皆で集まりたい in Okinawa!!
- ・これからも頑張ってください。
- ・とても楽しかったです。
- ・もうちょっと長く滞在したかった。
- ・すごく良い交流会だったと思う。ありがとうございました。
- ・今回のホームステイプログラムは、とても貴重な経験になりました。ありがとうございました (2)

Q 1. Please write your impression of this year's homestay program (good point, points needing improvement, requests for youth-participants, other thoughts)

——今回のこの事業に対する感想を記述してください。(良かった点、改善すべき点、派遣生徒に対して要望したいこと、その他)

良かった点

- ・沖縄県人の家でのホームステイプログラムは、他のマスコミ関連等の団体が実施している内容と異なる箇所(学習内容)が、このホームステイ事業のすばらしさだと思う。
- ・現代の沖縄の若者と触れ合い、会話が持てたこと。
- ・ニュースや映画などで見る以外のワシントンD.C.を体験し、知ってもらったこと。
- ・今回のホームステイプログラム1年目は大成功だったと思います。私たちも経験を積むことができました。
- ・参加者がほとんど高校生だったため、これから先長い間彼らの経験を共有したり、困難を振り返っていけると思う。
- ・何のトラブルもなく、無事すべての日程を終えることができた。
- ・このプログラムは非常に素晴らしいものだったと思います。毎年、毎年より良いものになっていくと信じています。

改善すべき点

- ・沖縄移民の歴史を学ぶことが今回の学習のテーマでしたが、ほとんどが高校生の参加者ですが、このテーマに惹かれて参加を決意したのでしょうか。
- ・食物や動物などのアレルギー等は、派遣生徒が決まった時点で確認したい。
- ・期間が短すぎるように思う。特に都市部だと、市内の観光地と郊外に広がる会員の住居が大範囲に散らばっていて移動に時間と手間がかかり、グループアクティビティの際の集合・移動、駐車でもかなりの時間がとられます。時差ぼけ、長旅の疲れ、慣れない土地、食事で旅なれない若者が短期間の間にあちこち回るのはきつく、限度があると思う。ホスト家族にしても、まとめて休みが取れなかったり、年配の方であったり、共通の言語を話さなかったりするので全てに時間がかかることも考慮して、滞在期間を少し長くしてほしいと思います。
- ・おみやげのあり方に関して、何らかの基準を設定した方が良いと思う。おみやげを準備するための時間とお金の負担は生徒にとってもホストファミリーにとっても大変です。たがいが負担にならないよう、できるだけ簡素化するように勤めた方がお互い気を使わずにすむと思う。
- ・前もって生徒の本籍地を知らせてほしい。
- ・働いているホストファミリーが生徒たちと一緒にアクティビティに参加することができなかったため、別日程でも良かったのではないという提案があった。

派遣生徒に対してお願いしたいこと

- ・来る前に、前もって滞在先の基本的なことなどを下調べすると役立つかと思う。
- ・積極的に、意思疎通と相互理解につとめていただけると大変助かります。
- ・観光地であちこちの地点で写真をとる度に皆のカメラをローテーションして写真をとると貴重な時

間が削られてしまい大変もったいないと思う。ピカソなどの写真シェアサイトなどをあらかじめ用意しておいて、団体行動の時には主要カメラは1つか2つにしぼって、後で写真をアップして共有してもらってはどうか。

その他

- ・各ホストファミリーは生徒に一日に少なくとも10時間付いていることが望ましいですが、私用や仕事などで厳しいことがありましたが、今回1年目でこのことを認識できたので重要なことだと思います。
- ・参加生徒の年齢が低かったことが難しい点でした。アメリカでは、彼らは大人ではなく子どもと見られるので、90%の時間大人の随行員を必要としていた。

Q 2. Was the time period for this year's homestay program suitable?

——今回のホームステイの実施時期については、適当でしたか。

- ・8月中旬までは、子供を持つ会員の多くが沖縄に里帰りしているため、子供がいる家庭での受け入れが難しかったように思う。10日間のホームステイなので春休みを利用することも考えられます。
- ・もう少し長いほうが良いと思う。飛行機での移動時間を含めずに2週間から2週間半くらいはあった方が良いでしょうと感じます。
- ・2世のアメリカ家庭に入るには、実施時期はパーフェクトでした。もう少し長かったら難しかったと思う。
- ・ワシントンD.C.エリアでの時間はとても実り多く、ホストファミリーが生徒たちと一緒にアクティビティーに参加する機会になっていた。
- ・とてもいい時期でしたが、もし時間増やしても、ホストファミリーが生徒のための十分な準備がなければ有効ではなかったと思う。
- ・訪問する2ヵ月前までにすべての事が決定していたら、受け入れ側もスムーズに準備計画ができる。
- ・5月から6月の期間が私たちにはベスト。畑を持っているため7月から8月が収穫の時期になる。
- ・10日間よりも、1週間の方がより良かったと思います。

Q 3. Do you have any thoughts or requests regarding the timing of arrangements between Okinawa Prefecture and kenjinkais for this year's homestay? (E.g. In order to find local host families, by when do kenjinkais need to receive information such as the implementation date or the number of youth-participants?)

——今回のホームステイ派遣事業についての県と海外県人会との調整時期について、意見・要望はありますか？（現地でのホストファミリーを確保するため、いつごろまでに実施日、派遣人数などを海外県人会へ知らせる必要があるか、など）

- ・DC沖縄会で行ったホストファミリー募集に対して、初めて6家族の申し出がありました。このホームステイ事業は、受け入れる県人会が学習カリキュラムを作成し、交通手段、学生の生活もすべて世話する内容になっていますが、今回の当会の場合、ホストファミリーがほとんど負ってしまうことになりました。その幅の広い責任を考えると、ホームステイの学生を受け入れる前の準備期間が必要です。少なくとも6ヵ月の準備期間が欲しいです。理由は、学習内容に沿ったカリキュラムの

作成と実施の検討。学習の目的での交通移動の検討。学生を泊めて世話をするホストファミリー以外のスタッフが必要ですので、その人材の確保など。県人会はホームステイプログラムの専門機関ではありませんし、経験のとても少ない素人の集まりです。沖縄からの学生というだけで暖かく迎えたいというチムグクルが先行してしまうのですが、やはり、受け入れる側としての準備は少なくとも6ヵ月は必要かと思います。

- ・ 少なくともホストファミリーを選ぶためには4～5週間前に告知してもらえるととても助かる。
- ・ 当会では、生徒が到着する5ヵ月前にミーティングを始めた。
- ・ もっと早めに知らせてもらえると、もっとより良いものになると思う。
- ・ ホストファミリーは、若いメンバーたちと一緒に計画や日程について少なくとも6ヶ月の間を持って行うべきだった。

Q 4. What are the most important characteristics for youth-participants to have? Please number in order of importance from 1 to 7.

——ホームステイ参加者の資質で大切な事は何ですか？以下の（ ）に1～7までの優先順位を書いてください。

- | | |
|--|---|
| (3) Language ability | (4) Ability to teach people about Okinawa |
| (6) Desire to interact with kenjinkai members | (1) Active enthusiastic attitude |
| (5) Interest in international exchange/foreign countries | (2) Interest in doing a homestay |
| () Other (Please specify: | |

Q 5. How was the attitude of your host student toward the daily living and learning aspects of the homestay?

——今回受け入れた参加者の生活・学習態度はいかがでしたか？（感想を述べてください）

- ・ 生活態度は、素直で礼儀正しく何の問題もありませんでした。学習態度に関してはもっと積極的になってほしかったとは思いますが、参加者の性格などが学習態度に影響していたようですので、学習態度が一概に悪かったとは言えないですね。
- ・ 家では口数は少なかったですが協力的で、ペットの猫とも遊んでくれる、やさしい子でした。ただ、せっかくの機会を活かして英語のスピーキングを積極的にやってほしかったのですが、ほとんど話さず、英語で聞いても最低限の返事だけでした。家に日本語を話す人がいると、英語を話すのはとても億劫に感じるかもしれません。また、同年代の学生やせめて子供でも家にいれば、彼女にとっても、もっとくつろげて、話もしやすかったかもしれないと感じました。
- ・ とても礼儀正しく、プライベートな時間も尊重してくれた。また、熱心にアメリカの文化を理解しようと努め、私たちが説明したアメリカ文化と沖縄文化の違いも理解しているようだった。とてもユーモアのある生徒でした。
- ・ 素直で礼儀正しく、積極性がある
- ・ とても積極的で、フレンドリー。いい子だった。
- ・ 何事も学び、質問したり、とても素晴らしい学習態度でした。

Q 6. Did you have anything hard to arrange Host family and implement this Homestay Program?

—今回のプログラムの実施やホストファミリーの調整にあたって、苦労した点などはありますか？

- ・今回のホームステイ事業のホストファミリーになれたことはとても光栄で、苦労したことはありませんでした。
- ・子供がいる家庭では忙しくすべてのプログラムに参加出来なかったため、ホームステイを受け入れる家庭は、退職されたご夫婦が好ましいのではないかと思います。
- ・何組かの夫婦はホストファミリーとしての経験がかなりあり、当初はそれがプラスになると思っていました。が、実際、ホームステイ小委員会をつくり、プログラムの作成と一緒にとりかかりだすと、米国一般の業者やNPOによるホームステイプログラムと、県が実施する、海外ウチナー移民社会やウチナーネットワークを活用してのホームステイとはかなり大きな違いがあることを認識させられざるをえませんでした。またこういったプログラムに、純ウチナーンチュが望むものと、沖縄系米国人会員および沖縄びいきのアメリカ人が望むものにも大きな違いがあることを痛感させられました。
- ・ホストファミリーに登録された方々の年齢、バックグラウンドや子供の有無にも大きな差があるうえ、日本語を全く話さない方々と共同でプログラム作りをやっていくのに苦労しました。
- ・沖縄県出身1世のいる家庭と、沖縄系米国人の間の文化の理解度や価値観の差を、再認識させられる経験でもありました。
- ・計画や実施において困難な点はありませんでした。与えられた時間と費用、ボランティアで計画とプログラムの実施も可能です。
- ・ホストファミリー（受け入れ）が少なかったため、1家族に2～3人受けることになったが、現地としては1家族に対し1人が好ましいと思う。

Q 7. May we enter your family in the Host Family Data Bank as family that is able to host home stays next year and in future years?

—次回以降についても、ホームステイ受け入れが可能なホストファミリーとして、ホストファミリーバンクに登録しても良いですか？

- ・自分の子供の世話をしなくてもよくて、かつ主人が定年をしてからならホストファミリーバンクに登録してもいいですが、当分は控えさせていただきます。
- ・はい。受け入れが可能かどうかは毎年その年の状況によって変わってきますが、基本的に登録をこのまま更新したいと思います。なるべく大学生を希望し、社会人でも検討いたします。
- ・いいえ、大丈夫です。
- ・はい

Q 8. Please write any other comments or requests you may have for Okinawa Prefectural Government/

—その他、県に対する要望等があれば、書いてください。

- ・学生を受け入れる県人会には、今まで受け入れてきた県人会の記録があると思いますので、参考に

する資料としてブックレットを送って欲しいと思います。受け入れ側の準備に大いに役立つと思います。

- ・最初は登録した方の多くが、各個人のホームステイで、県人会のホームステイとは理解していなかったようでした（私を含め）。学生をグループだけで派遣するのではなく、個人派遣もできるようにした方が良いでしょう。
- ・ホストファミリーとして沖縄の生徒の受入の機会を頂きありがとうございます。光栄です。
- ・このホームステイプログラムは、とても刺激的で生徒たちにとっても非常に楽しいものでした。もし生徒3名につき1人のフルタイムの随行者、もしくはガイドがない場合は、若い生徒たちのグループを派遣することは避けたほうが良いでしょう。
- ・この沖縄県のホームステイプログラムにお祝いの言葉を述べたいと思います。これからも、このプログラムを向上させ、参加するホストファミリーや県人も経験を積んでいけるとと思います。いい目的でとても素晴らしいプログラムです。継続的に続けてほしいです。ワシントンD.C.沖縄会が、活発なアメリカにある沖縄県系社会の様々な側面を提供できると信じています。
- ・航空券を2ヵ月前までに購入してほしい。決定を早く！
- ・今回のホームステイプログラム本当にありがとうございました。参加できたことに感謝します。



ホストファミリー宅にて記念撮影



ジャクソンビル県人会のみなさん



職場訪問！



チェロキーにある
インディアン・コミュニティ



交流会での沖縄紹介！
ハブとマングースについて発表



チムニーロック！暑くて、階段もきつかったけれど、景色は最高！



ジャクソンビル県人会の方々のメッセージ入り横断幕



ジャクソンビル沖縄県人会にて



ライト兄弟の飛行機に乗って記念撮影



ジャクソンビル高校&コミュニティーカレッジも訪問!



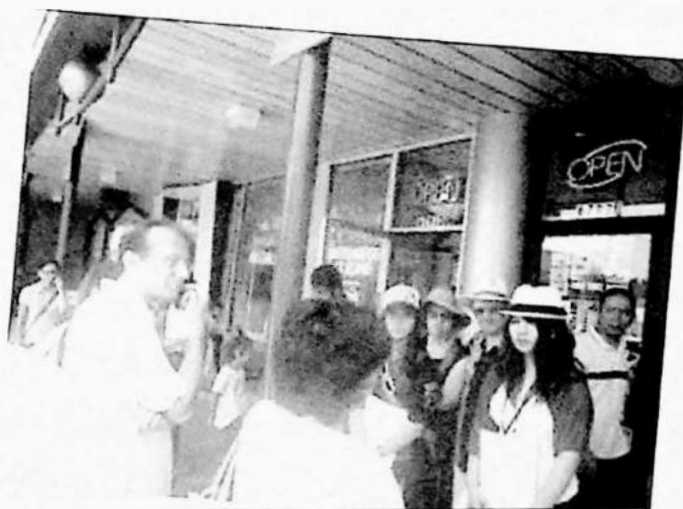
最後のお別れ会
一人ずつ感謝の言葉を述べました!



ダレス国際空港



ジャハニース・アメリカン・メモリアル



エテンセンターでマリオさんに、ベトナム移民についてのお話を聞きました。



日帰りのニューヨークツアーで、移民博物館のあるエリス島を訪れました。



ホストファミリーと一緒に



ワシントンD.C.沖縄会のピクニック！
みんなでカチャーシーを踊って大盛り上がり



伝えたい沖縄を発表！
りんけんバンド



National Museum of National History
で働く知念さんにお会いしました！



沖縄会のピクニックで、誕生日を
お祝いしてもらいました！



お別れの日！
第5回世界のウチナンチュ大会で会う約束を交わし、
さよならしました！

海外県系子弟ホームステイ受入事業 報告


平成23年度海外県人会ホームステイ受入


平成23年10月7日～平成23年10月17日


月 日	時 間	内 容	場 所
10月7日(金) 1日目	10:40	那覇空港到着 到着後、ホームステイ先へ	那覇空港 各ホームステイ先
10月8日(土) 2日目	終日	ホストファミリーと共に過ごす	ホストファミリー宅など
10月9日(日) 3日目	-11:30 12:00-14:30 14:30-15:00 15:00-17:30 17:30-	国際通り(安里側)集合 旗頭行列観覧 国際通り→久茂地交差点 大綱引き参加 ゲストの送り	国際通り 国際通り (移動) 久茂地交差点付近 各ホームステイ先
10月10日(月) 4日目	終日	ホストファミリーと共に過ごす	ホストファミリー宅など
10月11日(火) 5日目	-09:30 09:00-09:15	県庁集合 文化観光スポーツ部参事監表敬	県庁 県庁
10月12日(水) 6日目	10:00-	民泊@読谷 ヤチムン体験、ガマ体験等 バンダナ染め体験、座喜味城址 ビーチ散策、FMよみたん出演	読谷村 他
	-14:00 16:00-19:00 19:00-	国際通り到着 前夜祭パレード、懇親会 ゲストの送り	国際通り 国際通り 各ホームステイ先
10月13日(木) 7日目	-09:00 09:00-10:30 10:00-15:00 15:00-17:00 17:00-21:00 21:00-	県庁集合 県庁→首里城 琉舞・空手奉納演舞、舞への誘い、見学 首里城公園→セルラースタジアム那覇 開会式 ゲストの送り	県庁 (移動) 首里城公園 (移動) セルラースタジアム那覇 各ホームステイ先
10月14日(金) 8日目	-09:00 09:00-10:30 10:00-12:00 13:00-16:00 16:00-18:00 18:00-21:00 21:00-	県庁集合 県庁→南部方面 南部戦跡巡り(平和祈念資料館等) グローバル次世代プロジェクト 各市町村へ移動 各市町村交流会 ゲストの送り	県庁 (移動) 南部 コンベンションセンター (移動) 恩納村、読谷村、西原町 各ホームステイ先
10月15日(土) 9日目	-09:30 10:00-17:30 17:00-21:00 21:00-	セルラースタジアム那覇に集合 国際親善ファミリーフットサル大会 ワールドバザールフェスタ ゲストの送り	セルラースタジアム那覇 セルラースタジアム那覇 セルラースタジアム那覇 各ホームステイ先
10月16日(日) 10日目	-15:30 17:00-20:30 20:30-	ホストファミリーと共に過ごす セルラースタジアム那覇に集合 閉会式、グランドフィナーレ ゲストの送り	ホストファミリー宅など セルラースタジアム那覇 セルラースタジアム那覇 各ホームステイ先
10月17日(月) 11日目		参加者帰国または親戚宅へ プログラム終了	

世界のウチナインチュ大会


参加者プロフィール


氏名・出身国	ゴールドウォーター マリアフローレンス (アメリカ)	
生年月日	1994年5月5日 (17歳)	
在学中の学校	Grand River Prep 高校 12年生	
親(親族)の出身地	西原町	
趣味・特技	描画、ダンス、フルーツ、和英訳、料理、 お菓子作り	
ホームステイで 期待すること	沖縄の素晴らしい文化を勉強したい。沖縄の文化と私は何処から来ているのか知識を増やしたい。そして自分自身はどういう人か学び、新しい友人との出会いで視野を広げたい。	

氏名・出身国	佐久間 林 ホロリーゴ (ブラジル)	
生年月日	1987年5月5日 (24歳)	
在学中の学校	ロントリーナ総合大学歯学部卒業 SUPERIOR COMPLETO UEL	
親(親族)の出身地	恩納村	
趣味・特技	空手、エイサー、サッカー、映画鑑賞	
ホームステイで 期待すること	出身地恩納村の旧家、先祖の墓参りや旧跡を訪ね体験したい。世界のウチナーンチュ大会に参加し、青年と交流を深めたい。また教育面や青少年との交流を図りたい。	

氏名・出身国	ハシェホス コハツ エリサベス カリナ (ペルー)	
生年月日	1985年11月16日 (25歳)	
在学中の学校	CIBERTEC 専門学校	
親(親族)の出身地	西原町(祖父、母)、中城村(祖母)	
趣味・特技	三線、イベント企画、マーケティング、 グラフィックデザイン	
ホームステイで 期待すること	西原町における移民の歴史をまとめたい。若者や大学生との文化交流とネットワークづくり。ペルーについて紹介したい。	

参加者プロフィール

氏名・出身国	イシサカ イレイジョウ アミ (ペルー)	
生年月日	1991年8月1日 (20歳)	
在学中の学校	Pontificia Universidad Catolica del Peru	
親(親族)の出身地	うるま市	
趣味・特技	沖縄音楽、三線	
ホームステイで期待すること	以前行く事ができなかった観光地へ行って、沖縄で知り合い、共に学んだ友達と一緒にウチナーンチュ大会に参加。沖縄をさらに深く知りたい。	

氏名・出身国	池原 飛鳥 (ポリビア)	
生年月日	1997年4月29日 (14歳)	
在学中の学校	オキナワ第一日ボ学校 8年生	
親(親族)の出身地	読谷村楚辺(祖父)	
趣味・特技	絵を描く事、エイサー、三線、バレーボール、 バドミントン	
ホームステイで期待すること	自分のルーツを確かめてみたい。沖縄の文化を知りたい。沖縄の生活習慣や同年代の人達との交流。	

■ホストファミリー名簿

No.	ホストファミリー名	居住地	ホームステイ者
1	田邊ファミリー	那覇市	佐久間 林 ホロリーゴ
2	玉那覇ファミリー	糸満市	池原 飛鳥
3	新井ファミリー	那覇市	
4	天久ファミリー	与那原町	ハジェホス コハツ エリザベス カリナ
5	與那嶺ファミリー	宜野湾市	ゴールドウォーター マリア フローレンス
6	新垣ファミリー	那覇市	
7	森島ファミリー	那覇市	イシサカ イレイジョウ アミ



参加者感想

佐久間 林 ホロリーゴ (24歳/ブラジル)

ホームステイプログラムは、忘れられない素晴らしい経験でした。プログラムに参加して沖縄文化のことを広く知ることができました。それは、沖縄文化に関わっていく私にとって貴重な機会でした。そして同じウチナンチュとして気持ちを分かちあえる若者と出会うこともできました。沖縄の良さを大切に思い、アイデンティティーに気付き、次世代に引き継ごうという若者たちです。私は、プログラムに関わったみなさんや私を受け入れてくれた田邊家のみなさんに心より感謝しています。そしてプログラムを通して、私達はひとつの家族だということを感じることが出来ました。ありがとうございました。



ハジェホス 小波津 エリザベス カリナ (25歳/ペルー)

これからはもっと沖縄の人とペルー沖縄県人会と交流したいです。また、青年部のためにラティンホームステイプログラムで活動したいです。もう一つプログラムがあります。2006年に JUNIOR STUDY TOUR に参加し活動しました。NISETA TOUR というプログラムでした。しかしお金が足りないのです、外国人の参加者は少ないです。それは交流あまりできません。これから県人会の青年部、研修生、また文化のことをもっと活動すると思います。

また私は日本語をもっと勉強すると思います。



池原 飛鳥 (14歳/ポリビア)

私は、ここへ来る前におばあに「沖縄はきれいだよ。家の近くに海があったよ。人間みんな豊かだから心も豊かになるんだよ。だから、おばあが死んでもぜったいにウチナンチュ大会には行くんだよ。おばあは、いつだって飛鳥の事、見守っているからね」という言葉を私に残してくれました。

そして沖縄に来た私は、「ああ、おばあの言ったとおり、人も豊かだから心も豊かになるね」と強く思い、帰ったらおばあに伝えたいと思っています。

私はあのスタジオの大勢の人たちを見た時、「へえ、世界にもこんなに大勢のウチナンチュの血が流れている人がいるんだあ」と思い、世界が広く感じました。

私達ウチナンチュは、決して他人ではない。仲間だ。たとえ生まれ育った国がちがくても、話す言葉がちがくても私達はウチナンチュの血が流れている仲間なんだ。さあ、世界のウチナンチュのみなさん、自分達のおじいおばあ、お父さん、お母さんに感謝の気持ちを伝えようじゃないか。

おじい、おばあとお父さんとお母さん、私を生んでくれてありがとう。もしも、おじいとおばあが移民しなかったら、私はこうやって世界を広く感じる事ができませんでした。

私は、おじいとおばあから受けついでこのウチナンチュの血、決してむだにはしない。この「文化」「心」などを次世代へ繋げることを誓います。ウチナンチュ大会に来て本当によかったです。

みんなへ

「第6回 世界のウチナンチュ大会で

またここで 会おうじゃないか。みんなのふるさとで！」



ゴールドウォーター マリアフローレンス (17歳/アメリカ)

前、沖縄に来た時は、ただ遊びたかったけど、このプログラムに参加してもっと沖縄の文化にふれたいと思いました。ミシガンに帰ったらもっと沖縄のことを広げて「communityを広くしたい」という気持ちがわきました。すごく良かったです。



イシサカ イレイジョウ アミ (20歳/ペルー)

2010年の8月～11月の3ヵ月間沖縄に滞在してましたので、変わるところはあまりなかったです。いつも変わらないその温かい歓迎が好きです。私の母は1986年に沖縄に行き、人々の笑顔、優しさが変わらないと教えてくれました。私は、2011年に沖縄を体験し、同じ事を感じました。



現時点で私に重要なのは、沖縄で経験したこと、学んだことをペルーに住んでいるウチナンチュに伝えることです。

なによりも、自分の祖先と世界のウチナンチュが繋がっているその文化をなくしてはいけないことを伝えたいです。沖縄で、初めてあった人と一緒に「安里屋ユンタ」を歌って、とても感動的でした。みんなが昔からの知り合いみたいでした。この空間を分かち合える気持ちを感じることは素晴らしいです。私たちが共有

するこの大事な文化を継承し、ウチナンチュについて多くの人々にも見せたいと思います。

どうもありがとうございました。



①世界のウチナンチュ大会参加について

飛鳥：いろんな国の人たちとの交流があったので、とても楽しかったです。

マリア：開会式はすごくて、エイサーが好きでした。

カリナ：開会式と閉会式に自分の国と一緒に良かったと思います。また、ワールドバザールは色々な国のことを見ることができましたので、楽しかったです。次世代プロジェクトについて、色々なテーマは大切だと思います。フットサル大会の時は気分が悪かったので、参加できなかったです。写真を見たら皆楽しみました。しかし、個人で観光所に訪問も望ましいであろうと思います。

ホロリゴ：言葉では、言い表せない決して忘れられない何かがありました。次の世代へ教え伝えていきたいと心底思いました。

アミ：ウチナンチュ大会のプログラムは、始めから終わりまでとても良かったです。私は一年前に沖縄を訪れ地元の人々と親しくなることが出来ました。その沖縄にまた行けることはとても良い経験でした。開会式、閉会式では世界中の人々が同じ場所でそれぞれの想いを集まるということは、とても素晴らしいことだと思います。とても離れている場所に住んでいる人達と出会い、一緒になることが出来るのを想像したことはありませんでした。前夜祭パレードでペルー団体と一緒に参加しました。沖縄の人に"ただいま"と言いながら挨拶をして、国際通りを歩いて行きました。本当に自分の故郷にいると感じました。観光を目的に来る観光客ではなく、同じ家族の一員みたいに、快く歓迎してくれました。様々なイベントに参加して、沖縄についてだけでなく、世界のウチナンチュが困難を乗り越えて来た移民先の国についても学ぶことができました。

②読谷での民泊体験について

飛鳥：自然を体験できて本当によかったです！！

マリア：海がきれいで、新垣さんたちはすごく面白かったです。

カリナ：読谷のファミリーは、すごく親切です。おじいさんは色々な所に連れて行ってくれたり、ゆっくりパンダナの作り方を教えてくれたりしました。おばあさんは、美味しいご飯を作ってくれて、また戦争の話をたくさんしてくれました。この体験はとても満足です。

ホロリゴ：那覇とは違う地域を体験できたことは、とても良かった。私にとってすべてが初めてのことでありながら、より強い絆を作ることができた。

アミ：新垣ホストファミリーと一緒に住むことができ、とても感動でした。新垣家に着いた日、新垣さんが読谷の色々な所を紹介してくれて、自分の家でやっている仕事について教えてもらいました。

新垣さんの奥さんは、沖縄料理を作ってくれました。ペルーでは家族と一緒に沖縄料理をよく食べるので、懐かしく思いました。家族と一緒にいるみたいでした。

③平和祈念資料館について

飛 鳥：「アメリカ軍に殺される」と思っている一般人の強い恐怖を感じ鳥肌がたちました。自分でもびっくり！

マ リ ア：もっと見たかったです。

カ リ ナ：戦争の色々なことを学びました。この所は大切にあり特別です。写真を見たら、戦争のイメージでした。またお祖母ちゃんの話思い出しました。その説明と写真を見たら、戦争のことと祖父母の気持ちをもっと理解できました。

ホロリゴ：とてもインパクトが強かったです。戦争のことは知っていましたが、これまで深く考えることはありませんでした。過去の歴史を知る良い機会となり、もっと学びたいと思いました。

ア ミ：平和祈念資料館で見た事は、私にとってとても衝撃的で心に深く刻まれました。第二次世界大戦は日本人にもアメリカ人にもつらかったと気づきました。私のおじいちゃんは、戦争の時に沖縄にいました。戦争体験の話がたくさん聞いたことはあるけれど、それは想像の範囲でした。しかし、資料館に行った時おじいちゃんの話思い出して、当時の想いを理解できました。実際に起こったことが分かって、沖縄がアメリカの占領下のおかれた頃のことも学びました。

④地域の交流会に参加して

飛 鳥：読谷の方に声をかけられ、話がとても合うことにびっくり！おばあが言っていた通り、「人が豊かだから心も豊かになる」読谷は、私の「ふるさと」と思いました。

マ リ ア：食べ物、おいしかった（笑）。いろいろな人に会って楽しかった。

カ リ ナ：色々な友達と会って、また西原町長と役場の人と交流できました。大切な交流だと思います。私は、ペルー西原町人会のプレスとイメージ部長ですので、その交流でペルー西原町人会のために色々な話ことができました。

ホロリゴ：誰とも会えなかったのは、残念でしたが、私のルーツ恩納村を知れたことは素晴らしい励みになりました。

ア ミ：うるま市の歓迎会に参加して、去年3ヵ月間うるま市で研修した時に受け入れしてくれた市長と再会しました。市役所で知り合った人たちとも再会できて、嬉しかったです。一年後にまた会うことが出来ると思わなかったです。会えなかった時がとても長く感じました。当日、高江洲の親戚とも再会できて、私が沖縄にまた来られたことに驚いていましたが、去年みたいに喜んで受け入れてくれました。

⑤沖縄のことを学んだり、人と交流を持つことはできましたか

飛 鳥：はい！

マ リ ア：はい。いろんな人と交流で来てよかったです！ いろんな人に会えたので、世界がもっとつながっている気がしました。

カ リ ナ：私の場合は、沖縄は2回目でしたので、たくさんの友達と会う事が出来ました。沖縄の人と

外国の人です。また、親戚と会うこともできました。でも、今回は西原役場の人と色々な部長と担当と会いましたので、ペルー西原町人会のために話ができました。また、ペルー沖縄県人会の研修部長ですので、奨学金について担当と交流の話ができました。今回は、ペルー沖縄県人会とペルー西原町人会の利益のために非常に生産的な訪問だったと思います。ペルー協会の人と会う事もできました。時間は短かったのですが、たくさんの人と会う事ができましたので、満足です。

ホロリゴ：はい、100% 予想以上に。

ア ミ：2010年にうるま市の研修生として日本語だけを勉強しました。今年は、ウチナンチュ大会をきっかけに沖縄について学ぶ機会を与えてくれました。前回、沖縄で3ヵ月間住んだことがあるのにまだまだ沖縄について理解すること、経験すること、発見することがあるということに気がつきました。ウチナンチュ大会のおかげで、海外と母国のたくさんの友達と出会いました。沖縄滞在中にイギリスの友達と一緒に色々なところに行き、イベントにも参加しました。一緒に参加したフットサル大会では、フェアプレー賞をもらいました。

⑥ホストファミリーはどうでしたか

飛 鳥：家族として受け入れてくれたから、うれしかったです。

マ リ ア：すごく楽しかった！ 本当の家かのように過ごしました。

カ リ ナ：ホストファミリーのイメージはすごく違います。ファミリーといたら私のイメージは、お父さん、お母さん、子ども達とか祖父母です。また、特に沖縄に行ったら、文化とか日本語とか歴史をもっと知りたいので、ファミリーと一緒にいたら全部出来ると思いましたが、私の場合は全然違いました。私のところはゲストハウスでした。ファミリーはいませんでした。毎日お客さんが来てみんな酒を飲んだり、夜遅くまで酔っていました。ただ一回そこで朝ごはんを食べました。大仲さんと山城さんと話しましたが、山城さんは変わりませんと言いました。（友達のところ行ったら、ホストファミリーじゃないですと山城さんは言いました。でも、そこもホストファミリーではなかったと思いました。友達は、お父さんとお母さんと住んでいたので、みんな色々な話が出来て、色々な所へ行けると思いました。）山城さんと天久さんが話した後、天久さんと外と一緒に食べに行きました。でも天久さんの友達与那城さん、もっと親切でした。悪いけど私はそこはちょっと……。私は沖縄に2回目でたくさんの友達がいますので、また色々な所をわかるので、25歳でしたので大丈夫でした。でも初めてだったり、また13歳の飛鳥さんだったら大変と思います。

ホロリゴ：最高でした。私は田邊家のみなさんのお心遣いに深く感謝します。

ア ミ：私のホストファミリーは、とても優しく一緒にいて楽しかったです。カイさんが妊娠中で、出産前にもかかわらず家族みたいに受け入れてくれました。いつも私のことを心配してくれました。家族みんなでジャスコまで連れて行ってくれました。カイさんとミユキさんにいつまでも感謝しています。

⑦あなたが期待したことはどのくらい達成されましたか

飛 鳥：98%

マリア：150%

カリナ：70%

ホドリゴ：100%

ア ミ：100% 満足しました。

⑧印象に残っているプログラムは何ですか

飛 鳥：閉会式

マリア：開会式、民泊

カリナ：ブラジル、アメリカ、ボリビア3人の友達ができました。読谷の経験もいいと思いました。

ホドリゴ：全体のプログラム、ホームステイ、すべての瞬間が素晴らしかった。

ア ミ：このプログラムは、とても良いと思います。他の研修生とウチナンチュ大会の参加者と会えたので、一生忘れられない経験になりました。2週間だけですが、とても貴重な機会なので、このプログラムはずっと続けたらいいと思います。沖縄を訪問し、人と出会うだけでなく、我が家に帰る機会です。自分の祖先を知り、違う国に住んでいても私達と繋がるウチナーへの気持ちを一生忘れないようにするための良いプログラムです。

⑨その他、要望などがあれば書いて下さい

飛 鳥：私にとって一番の思い出は、「世界のウチナンチュと過ごした時間」です。

マリア：もっと長かったらいいな。お金がもっとでたらいいな……。

カリナ：ホストファミリー以外にプログラムは楽しかったです。しかし、時間は短いです。またもっといろんな所へ行けたらいいと思います（ちゅら海水族館とか、琉球村とか）。また別々の年齢層にしたらいいと思います。13歳から25歳まで大きな違いがあります。興味が違います。

ホドリゴ：ホームステイプログラムは、忘れられない素晴らしい経験でした。プログラムに参加して、沖縄文化のことを深く知ることができました。それは、沖縄文化に関わっていく私にとって貴重な機会でした。そして、同じウチナンチュとして気持ちを分かち合える若者と出会うこともできました。沖縄のよさを大切に思い、アイデンティティーに気付き、次世代に引き継ごうという若者たちです。私は、プログラムに関わったみなさんや私を受け入れてくれた田邊家のみなさんに心より感謝しています。そして、プログラムを通して、私たちはひとつの家族だということを感じることができました。ありがとうございました。

ア ミ：このプログラムは、ウチナンチュ大会期間だけでなく、後1、2週間でも延長出来たら、ホストファミリーとの交流を深めることができますと思います。ウチナンチュ大会のイベントに参加し、毎日忙しく、家に帰るのが遅かったです。せっかくの良い機会でホストファミリーの家族の一員として歓迎してくれているので、もっと一緒に過ごせたらと思います。

ホストファミリーアンケート

本プログラムは、ホームステイを通しての県民との交流が大きな目的の一つです。そのため、受け入れされるホストファミリーの皆さまにはプログラム趣旨をご理解、ご協力頂けることが、重要になっています。

今回は、新垣家の皆さま、田邊家の皆さま、天久家の皆さま、新井家の皆さま、與那嶺家の皆さま、玉那覇家の皆さま、森島家の皆さまにお世話になり、充実したホームステイ体験となりました。



10月7日 ご対面@県庁ロビー

◆ホストファミリーアンケート◆

Q 1 : 感想をお聞かせください。

- 飛鳥さんは娘と同じ歳なのですが、1人で4回も飛行機に乗ってる2日かけて沖縄に来たことに対して、とてもびっくりしていました。いい刺激になったと思います。
- 帰りが遅い時があって心配したので、あまり遅くなる時には事前に電話をくれると安心します。
- 初めてホストファミリーで受入しました。飛鳥さんが来るまでは、心配（言葉）でしたが、4日間楽しくできましたと思います。
- 初めてのホストファミリーでそれも民宿での受入ということで心配、不安はありました。期間中も民宿の仕事とホストファミリーとの間で戸惑うこともありましたが、とても貴重な経験とウチナンチュ大会にも関わったことに感謝しています。当然言葉の壁や生活習慣の違いなどからどこまで適度なコミュニケーションが取れたかわかりませんが本人の希望、要望を極力大切にされていて、それを引き出すことが難しかったところです。プログラムが多忙だったようで、また留学経験があり多数のお友達がいるとのことであまりこちらから案内ができなかったところが少し残念ではありますが、カーリーさんの友人、民宿まわりの友人とも知り合えたし、期間後も友人同士フェイスブックなどを通して、写真・メール・日本語の勉強などやり取りがあることは良かったなと思います。
- お互い無理なく出来て、とても良かったです。

Q 2 : 今回のホームステイの実施時期については、適当でしたか？

- 夏だと沖縄らしいマリンスポーツが楽しめるかな？
- 受入的にはいつでも大丈夫です。
- 子ども達も秋休みに入り、時期は良かったと思いますよ。
- 時期、滞在期間は特に問題ありませんでした。
- 民宿なので夏場のシーズン時よりはむしろオフシーズンの方が触れ合える機会があって良かったです。
- 適当でした。

Q 3 : 今回受け入れた参加者の生活・学習態度はいかがでしたか？（感想を述べて下さい）

- 特に問題なく一緒に生活できました。
- 子ども達同士、いろいろな事（言葉・遊び・家族等）について、話をしたり、飛鳥さんもいろいろ話をしてくれて良かったと思います。
- 私（母）は、用紙にいろいろな言葉を書いてもらいました。
- いい子で、一緒に生活しやすくとても良かったです。
- 留学経験があるので、特に緊張した様子もなくリラックスしていたのではと思います。日本語での会話も生活内では問題ありませんでしたが、あまり主張してこないのが食事、観光、体験案内など本人の希望をもっと伝えて欲しかったな。

Q 4 : 滞在期間中はどこへ連れて行きましたか？

- 海が見たいという事で、美ら海水族館、御菓子御殿、パイナップル園（パイナップルにも乗りました・パイナップルの試食）、北谷（エイサーも見られました）、豊崎のビーチ、トミトン（ブルーシールアイスを食べました）、回転ずし、道の駅いとまん。
- 彼女が買物に行きたいということだったので、ショッピングセンターなど5カ所ぐらいまわりました。外にお食事に行きました。もっといろいろ連れて行きたかったのですが、今回はほとんど時間がなかったもので……。
- プログラム休日の日は、予め知人との約束があったようで終日外出していましたが、平日に数回那覇栄町のペルー料理店（ぼくの知人、カーリーナとも知り合いのお店）で食事をしたり、写真をとったり、友人の学童の生徒とも交流しましたし、私自身の生活の延長線上で案内をしていました（とりたててめぼしい観光名所には連れて行ってません）。体験。本当はいくつか連れて行きたい所、例えば地元の青年会のエイサー見学や自治会の運動会、パークゴルフなど紹介したい人、場所はたくさんあったのですが本人も多忙につき案内できなかったのは残念ですが。
- 平和通りの着物屋、ジャスコ、メインシティー等。本人の希望で主に買い物へ行きました（観光地は前回でほとんど周ったそうです）。

Q 5 : 今回、平日は県のプログラムへ参加していましたが、ホストファミリーとして平日も完全に受入可能（平日もホストファミリーが参加者を案内すること）ですか？

はい（3） 2～3日、 10日間、 7～8日、 いいえ（1）

Q 6 : 次回以降についても、ホームステイ受入が可能なホストファミリーとして、ホストファミリーバンクに登録してもいいですか？

- もちろんです。よろしく願います。再来年になります。家を建設予定なので十分な部屋を確保できるので受入もしやすくなるかなと思います。今回も部屋を片付けて個室を提供できたので次は男の子でも受入可能ですよ。

〇〇Kですよ。

〇ぜひともよろしくお願いします。ただ先方には一般家庭ではなく「hostelまたはGuestHouse」であると予めお伝えください。

〇登録よろしくお願いします。

Q7：その他、要望があれば、書いて下さい。

〇私達にとってとても貴重な経験でした。

〇基本スタンスは、「内地、または海外にいる親戚、子供達が沖縄の我が家に遊びに来た」という感じで受入を考えています。希望があれば普段行かないような観光名所にも連れて行けますがあくまで日常の延長線にある沖縄の普通を見せられたらと思っています。また、別件ですが当方南部広域観光協会の体験観光プログラムの資格を持っており、南部6市町村連携で民泊事業を平成25年度に向けて開発するのにも携わっておりますが、修学旅行生、一般の他に外国からも人の訪れる魅力ある南部（与那原）にしたくて役場、商工会とも協力しているのですが、JICAさんとも情報のやり取りがあれば一層幅の広がるプログラムが出来上がると思います。また何かの機会があればよろしくお願いします。





10月11日 文化観光スポーツ部参事監表敬



10月9日 国際通り～公設市場～大綱挽き参加



10月13日 首里城散策

10月14日 平和祈念資料館見学



思い出のアルバム ～第5回世界のウチナンチュ大会～



10月12日 前夜祭パレードに参加 @国際通り



10月13日 世界のウチナンチュ大会 開会式 @セルラースタジアム



10月14日 グローバル次世代プロジェクト @コンベンションセンター





10月15日 国際親善ファミリーフットサル大会 @セルラースタジアム



10月16日 閉会式 @セルラースタジアム





10月11日 1泊2日民泊体験 @読谷村



今年度は、8月に12名の沖縄の若者をアメリカ合衆国のワシントンD.C.とジャクソンビルへ派遣し、10月には第5回世界のウチナーンチュ大会の開催に合わせ、受入事業を実施する事になりました。

派遣事業については、今回初めて海外へ渡航した生徒もあり、これまではニュースや新聞、インターネット等でしか知らなかった事を、現地へ行き、現地に住む方々との交流を通して得た経験は何にも代え難いものであると思います。今回のホームステイ派遣事業で得た経験を、今後の人生に役立て、ウチナーネットワークの拡大・継承に資する取り組みを行って欲しいと思います。

受入事業については、第5回世界のウチナーンチュ大会に合わせて行いました。海外から5名の参加があり、大会期間前後において、ホームステイやウチナーンチュ大会のイベントへの参加や県内の施設訪問等を通じ、県民との交流が行えた事は、母県沖縄に帰ってきて、自分がウチナーンチュである事を再認識出来たものと考えております。

最後になりますが、ホームステイをご快諾下さったホストファミリーの皆様をはじめ、参加者を見守って下さった関係者の皆様に対し、この場を借りて感謝を申し上げます。ありがとうございました。

(沖縄県文化観光スポーツ部 交流推進課・山城 拓也)

まず始めに、2011年度海外県人会ホームステイ派遣事業の実施において、ご協力頂いたジャクソンビル沖縄県人会、ワシントンD.C. 沖縄会の皆様に心より感謝申し上げます。

今年度の派遣事業の参加者は1名の専門学生と11名の高校生で計12名、それぞれ米国・ジャクソンビルとワシントンD.C. への派遣となりました。参加者の派遣への期待は非常に大きく様々でありました。沖縄県人会の方々との交流・ホームステイはもとより、米国への派遣ということで語学力の向上や将来の留学・就職へのつながりに期待を示した参加者もおりました。私が随行したワシントンD.C. では、ワシントンD.C. 沖縄会の皆様に温かく迎えていただき、家族のように受け入れて頂きました。派遣事業の目的であるウチナーネットワークや移民学習を取り入れた現地でのプログラムを通し、移民について学ぶ機会を作って頂きました。さらに一人一家庭という環境にも恵まれ、ホストファミリーとの時間も多く参加者一人ひとりが豊かな学びと体験を得ることができたと思います。特に印象的だったことは、海外で多様な経験を積みながらもウチナーンチュの心を高く持ち続けている沖縄県人会の方々のお話や姿でした。県人会の皆様の姿は参加者に様々な刺激を与え、それまでの価値観や考え方、将来への展望など多くの側面に変化をもたらしていたように思います。

今年は第5回世界のウチナーンチュ大会の開催年でもあり、派遣後は米国からワシントンD.C. 沖縄会、ジャクソンビル沖縄県人会の皆様が来沖し、沖縄で再会することができました。派遣直後ということもあり、参加者の大会への関心は非常に高いものでした。遠く離れた米国と沖縄、両方の地で世界のウチナーンチュとの交わりを経験できたことは、ウチナーンチュの絆の強さをより感じることだったと思います。本事業を通して彼らが得た経験を今後どのように将来へつなげていくのか、大きな期待を持って

見守っていきたいと思います。当センターもまた、本事業を通してウチナーネットワークの継承と発展に携わることができたことに感謝し、今後も取り組みに励んでいきたい所存です。

(沖縄NGOセンター・岸本 佳子)

世界のウチナーンチュ大会にあわせての受入事業プログラムは、アメリカ、ペルー、ブラジル、ボリビアからの参加者を迎え実施されました。「ぜひウチナーンチュ大会に参加したい!」というあつい想いをもった14歳~25歳の5名が、母国から遠く離れた沖縄で出会い、交流を深めました。祖父母の出身地域での交流会に参加し、地域のみなさんと交流した後、「おばあが言っていた“沖縄”は本当だ!」と目を輝かせ高揚していた参加者が忘れられません。「沖縄に来て嬉しい!」とルーツ沖縄を満喫すると同時に母国の祖父母や家族に想いを馳せていた5名。沖縄をルーツにもち、それぞれの祖先や家族の移民・移住の歴史や、それを受けついでいる自分自身と家族を誇りに感じていたのではないかと思います。

今回の受入プログラムは、ウチナーンチュ大会関連イベントへの参加が主な内容となりました。フットサル大会や若者会議においては、同世代の若者との意見交換や交流で沖縄への想いを共有し、有意義な時間となり、開・閉会式では、世界のウチナーンチュと一緒にセレモニーに参加し、感動を共にしました。参加者の感想のなかで「忘れられない素晴らしい経験」という言葉で記されています。

最後になりますが、本事業の実施にあたり、来沖した5名を家族の一員としてあたたかく受け入れて下さったホストファミリー7家族の皆さまに心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

(沖縄NGOセンター・大仲 るみ子)

平成23(2011)年度 沖縄県ホストファミリーバンク推進事業報告書

発行者 沖縄県文化観光スポーツ部交流推進課
住 所 〒900-8750 那覇市泉崎1丁目2番2号
電 話 098 (866) 2479
F A X 098 (866) 2765
E mail aa05400@pref.okinawa.jp
<http://www.pref.okinawa.jp/index.html>

製 作 N P O法人沖縄N G Oセンター
住 所 〒901-2211 宜野湾市宜野湾3-23-52 1 F
電 話 098 (892) 4758
F A X 098 (892) 9908
E mail onc@oki-ngo.org
<http://www.oki-ngo.org>